

## 会議録

会議の名称	第3回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会
開催日時	令和7年10月2日（木曜日）午前9時30分から午前11時まで
開催場所	イングビル3階 第3・4会議室
出席者	<p>委員：小野部会長、小林委員、島崎委員、辻委員、中西委員、林委員</p> <p>事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、福所児童青少年課長、宮田子ども若者応援課子ども若者計画係長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係主任、須藤子ども若者応援課子ども若者計画係主任、園田子ども若者応援課子ども若者計画係主事、高橋子ども若者応援課子ども若者計画係主事</p>
議題	<p>1 議題</p> <p>(1) 市の事業に対する子ども・若者の権利の観点からの評価・検証の課題と仕組みづくりについて</p> <p>(2) 自己評価及びワイワイトークでの「子どもの評価」を踏まえた令和6年度子育て・子育てワイワイプラン事業評価について</p> <p>(3) 子ども・若者ワイワイプランの「子ども・（若者）の権利の観点」からの評価・検証方法について</p> <p>2 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1－1 子育て・子育てワイワイプランにおける子どもの権利に関わる取組実績に係る評価【令和6年度】</p> <p>資料1－2 令和6年度子育て・子育てワイワイプラン事業評価についての意見</p> <p>資料2－1 子ども・若者ワイワイプラン基本方針に基づく施策・事業の一覧【令和7年度事業予定】</p> <p>資料2－2 子ども・若者ワイワイプランの「子ども・（若者）の権利の観点」からの評価・検証方法について</p> <p>資料2－3 出張ワイワイトークの実施内容と意見について</p> <p>資料3 令和7年度専門部会スケジュール（修正案）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><b>1 議題</b></p> <p><b>(1) 市の事業に対する子ども・若者の権利の観点からの評価・検証の課題と仕組みづくりについて</b></p> <p>○小野部会長：</p> <p>評価・検証専門部会（以下「専門部会」という。）では子ども・若者の権利の観点からの評価・検証の仕組みについて議論し、年度内に評価・検証の方法に関する提言を行う予定であった。</p> <p>若者の評価・検証への参加や、前回の専門部会で議論に挙げた子どもの権利委員会のような別組織の設置など、もう少し時間をかけて仕組みを検討する必要があると思う。また、年度はじめにワイワイトークの内容について議論しているが、前年度から議論して準備を行い、ワイワイトークに臨んだ方がよいと思う。</p>	

そのため、今年度は中間報告として、子どもの権利の観点からの評価・検証方法のまとめを行い、来年度末に最終的な評価・検証についての提言を行うというスケジュールでできないかと考えている。

何か意見等はあるか。

○林委員：

実際に再来年度から子どもの権利委員会のような組織を始めることができるのか。

○小野部会長：

来年度に提言をして、再来年度から始めるというスケジュール感である。

○林委員：

今年度は中間の取りまとめとするならば、来年度に子どもの権利委員会を試行的に実施するのはどうか。ワイワイトークは今年度から準備を進めて、どのような形がよいかなど、実験的に活用し、再来年度から効果的に実施したほうがよいと思う。

○小野部会長：

ワイワイトークの評価に限らず、子どもの参加や意見表明、子どもの最善の利益の観点を取り入れて、当事者を集めて1年間試行的に実施するということか。

○林委員：

実施形態は、年間を通じて実施するでも、ワイワイトークのように期間限定で実施するでもよいと思う。若者に関することも含めて、丁寧に行うためにも準備期間を設けたほうがよいと思う。

○小野部会長：

そのような形で進めていきたいと思う。

事務局からスケジュールの修正案について説明願う。

○事務局：

資料3に沿って説明

## **(2) 自己評価及びワイワイトークでの「子どもの評価」を踏まえた令和6年度子育て・子育てワイワイプラン事業評価について**

事務局から資料1-1、1-2に沿って説明

○小野部会長：

本日の専門部会で確認し、次回の子ども・若者審議会（以下「審議会」という。）にて報告したいと考えている。

まずは、児童館・児童センターについて確認いただきたい。

○辻委員：

記載されている子どもの評価は、市の自己評価とリンクしていないように感じる。子どもが施設に対して感じるよい点と改善点を聞いたが、市の自己評価を踏まえた評価になっていない。

○小野部会長：

市の自己評価はワークブックによって子どもに伝えていたが、施設に対するよい点と改善点を子どもに聞いたため、個別の事業に対応した子どもの評価を得ることが難しかった。また、子どもは様々な地域から参加しているため、自分の周辺地域の施設しか知らなかったり、そもそも利用したことがない場合もあった。来年度の課題であり、改善していきたい。

○林委員：

事業に対する子どもからの評価は、実際はどのように行われているのか。

資料１－１の１ページの中高生年代プロジェクトについて、イベント後にアンケートを実施したとあるが、アンケートを踏まえてどのように反映していくのかも記載した方がよいと思う。

PＤＣＡサイクルのチェックにおいて、事業に対して子どもから評価を受け、それをもとに次のアクションにつなげるサイクルを意識していただきたい。

子どもに評価してもらい、市の取組に反映させる仕組みがあることをより明確に分かるようにしてほしい。また、担当課の職員が異動した際にもきちんと継続できるように調査票に明示していただきたい。

○小野部会長：

資料１－１の専門部会からのコメント欄の「担当課の自己評価の際には詳細を記載する必要があると考える」は、「反映させていく仕組みづくりを記載する必要がある」に修正してほしい。

○辻委員：

児童館・児童センターは実施したことしか記載されていないが、公園や公民館ではどのように子どもの意見を反映させていくのかを記載している箇所もあり、担当課により書き方に差があるのではないか。

○小野部会長：

資料１－１の１ページの専門部会からのコメント欄に、「また、「子どもの評価」によると、児童館・児童センターについては、地域によって利用する子どもの年齢層や傾向が異なり、また児童館と児童センターでの違いや児童館間でのプログラムやルール、開館時間、施設の充実度の違いなどがあると見受けられる。」とあるが、「児童館・児童センターが相互で学び合う機会を設け、お互いの児童館・児童センターのよいところを取り入れていってほしい」なども記載してはどうか。

市内の児童館・児童センターを４か所訪問したが、施設のサービスの質に差を感じた。下保谷児童センターは運営が民間に委託されており、充実している。また各館長によってもサービスに差があるように感じるため、児童館・児童センターが相互に学び合える機会を設けられるとよいと思う。

○島崎委員：

現在、児童館・児童センター同士で学び合う機会は設けられているのか。

○事務局：

月に１回、館長会議を開催している。

○小野部会長：

会議に近いものではないのか。  
研修や相互に学び合うことも行っているのか。

○事務局：

研修や取組を情報共有することも実施している。

○小野部会長：

ひばりが丘児童センターはとても印象に残っている。職員は活発であり、ワイワイトークに参加した子どもは、相談しやすいと話していた。直接子どもに話を聞いたら、学校では言えないことも、児童センターの職員には相談できると話しており、素晴らしいと思う。

○辻委員：

現在、ひばりが丘児童センターは相談に力を入れているが、子どもの話をしっかりと聞いたり、学校に様々な情報を共有してくれるなど、とても助かっている。

その場の館長や職員の考え方によって児童館・児童センターの雰囲気や方針が変わらないように、児童館・児童センター同士が相互に学び合うことで、よりよい方向に変えていけると思う。

○小野部会長：

飲み物ひとつを挙げても、施設ごとにルールが異なるようである。

ひばりが丘児童センターでは自動販売機が設置されており、ジュースを飲むことができるが、他の児童館・児童センターでは飲料物の持ち込み自体が禁止されていることもある。

ホームページ上でサービスが充実している児童館・児童センターを公開して、子どもに呼びかけることも一例としてよいと思う。

○中西委員：

資料1-1の1ページの専門部会からのコメントに「おもちゃや塗り絵など対応可能なリクエストにはなるべく早めに応えてあげる」との記載があるが、「応えてあげる」という表現は上下関係を連想させるため、「早めに応える」に修正いただきたい。

○小野部会長：

次に、公園の専門部会からのコメントについて確認したい。

子どもからの改善点として、ボール遊びがしたい、スタンプラリーを使ったイベントを開催してほしい、バケツやスコップの貸出を行ってほしいという意見は、市として検討できると思うので、「改善点に挙げられたリクエストについて検討する」などの一文を追記していただきたい。

○中西委員：

専門部会からのコメント冒頭に「高校生年代の参加や関わりについて記載がない」とあるが、ワイワイトークに参加した高校生が少なかったことや、あまり公園で遊ばない高校生もいると思うので、今後どのように高校生の意見を取り入れていくのか気になった。

また、子どもの意見を聞くために「目安箱」を設置するとあるが、「意見箱」とするのはいかがか。

○小野部会長：

意見箱がよいと思う。

専門部会からのコメント冒頭の「高校生年代の参加や関わりについて記載がない」に関しては、市の自己評価に記載されていないという意味であり、ワイワイトークの問題ではないと思う。市の自己評価に対してのコメントだということが分かるような記載にしていきたい。

市の自己評価にある「子ども向けの出店」については、詳しく話を伺いたい。

○島崎委員：

泉小学校跡地の泉小わくわく公園で行ったイベントではないか。

○小野部会長：

出店に関する記載は、泉小わくわく公園だけに限ったものなのか。ほかの公園でも行っていることなのか伺いたい。

○事務局：

市の評価欄は、担当課が記載しているため、詳細はすぐに確認できない。

○小野部会長：

専門部会からのコメントは、「具体的にどのような内容なのか詳細まで記載できるとよい」としたが、担当課に対して詳細に記載するように依頼するのはどうか。

また、「その事業は本当に子どもが求めている事業なのかが不明」とあるが、実際に子どもが主体的に関わっているかなどの視点をもう少し入れていきたい。

○小林委員：

子どもの意見が市の取組に反映できなかった場合も、できなかった理由を記載した方がよい。

○島崎委員：

現段階で計画していることも記載した方がよいと思う。

○小野部会長：

専門部会からのコメントを修正いただきたい。

○小野部会長：

次は、公民館の専門部会からのコメントについて確認いただきたい。

専門部会からのコメントに「具体的に何人増えたのか、数字で評価できる部分は記載すると説得力が増すと考える」とあるように、市の自己評価には具体的な人数を記載していきたい。

○林委員：

公民館に限らず、他の施設についても具体的な人数を記載できるのであれば、記載していきたい。

○中西委員：

「文化や芸術に触れる事業も多くあるが、ボッチャなどを通じて障害児も健常児も同じ時間を過ごせるような企画があるとさらに多くの子どもたちの参加につながると考える」とあるが、障害児の参加を呼びかけることが難しいということなのか、それとも現段階で実施していないということなのか。

○事務局：

谷戸公民館ではインクルーシブに関する講座としてボッチャが盛んに行われており、親子連れや車椅子の方も参加されている。最終的には南町スポーツ・文化交流センター「きらっと」にて、市民体育会のような大規模な大会を開催しており、そのような場を通してつながれたらよいと思う。

○小野部会長：

障害のある子どもに限らず様々な子どもが参加できるという意味合いだと思うので、「より多様な事業を計画していただきたい」のように修正していただきたい。

○林委員：

市がそのような取組を行っているのであれば、市の自己評価にも記載した方がよいと思う。

○事務局：

担当課には進捗状況調査票の記入を依頼しているため、市の自己評価をどのように記載するのかについても議論が必要だと思う。

○小野部会長：

専門部会からのコメントとは別に、記載内容に関する専門部会からの要望を担当課にフィードバックしていただきたい。

子どもの最善の利益や、子どもの権利の観点の盛り込んだ書き方にしなければならないので、担当課に十分に伝わっていないようであれば、庁内研修などを行うとよいと思う。

○辻委員：

担当課によって、子どもの最善の利益や子どもの権利の観点の受け止め方が異なるため、書き方も異なってくると思う。

例えば、「子ども向けの芸術・文化・スポーツの振興」の子どもの視点での自己評価①は、「なし」になっているが、そのようなことはないと思う。毎年、KーPOPイベントやボランティア活動を実施し、必ずアンケートをとっており、次年度に向けて何かしらの形で反映させていると思う。

○小野部会長：

「なし」という評価は、市が何も行っていないように受け止められてしまうので、注意した方がよい。また、「なし」としながら、市の自己評価がA評価なのは違和感を覚える。

次に図書館の専門部会からのコメントについて確認いただきたい。

公園と同様に「目安箱」を「意見箱」に修正願う。

ワイワイトークを通して図書館では様々なイベントが開催されていることを知ったが、あまり知られていないと思うので、周知が必要だと思う。

○島崎委員：

図書館のホームページにて、イベント等の周知は行っていると思う。

○小野部会長：

中学生が選ぶおすすめの本なども、ホームページ上で周知されているのか。

○島崎委員：

行われていると思うが、図書館を利用する子どもは知っていると思う。

○小野部会長：

図書館も子ども用のサイトは用意されているのか。

○事務局：

「子どものページ」として用意している。

○小野部会長：

他に意見等があれば、事務局へ連絡願う。

修正案は部会長の私の方で確認した上で、次回の審議会に報告したいと思う。

### (3) 子ども・若者ワイワイプランの「子ども・（若者）の権利の観点」からの評価・検証方法について

事務局から資料２－１、２－２、２－３に沿って説明

○小野部会長：

資料２－２の評価指標について、本日は「③子どもの最善の利益の観点」を議論したい。  
中野区子どもの権利委員である林委員に話を伺いたい。

○林委員：

中野区でも、子どもの最善の利益の観点について具体的に記載できるものは記載してほしいという意見があり、アンケートを実施し、どのように影響したか詳細まで記載していただいた。

○小野部会長：

意見表明・参加の観点や広報・周知の観点は、行動に基づいているものや短期的なものであるが、子どもの最善の利益の観点は、理念的なものや長期的なものであると思う。

子どもの最善の利益は人によって考え方が異なり、実際にどのような評価の指標を取り入れるのが課題である。

子どもの最善の利益は、英語では「The best interests of the child」と言い、「子どもたち」という集合体でみるのではなく、子ども一人ひとりを異なるものとして尊重することや、子どもが考える利益と大人が考える利益は違うので子ども自身の考えを反映させていくこと、今の子どもの利益と長期的にみた子どもの利益は異なるので長期的な視点を持つことなどが大事であると思う。

様々な子どもの最善の利益の観点をどのように反映させていくのか議論したい。

学校でアンケートを実施するにしても、不登校の子どもの居場所でアンケートを行い、全ての子どもの意見を聞けるように努めるなど外せないポイントがあるか。

子どもの最善の利益の観点は、意見表明・参加の観点や広報・周知の観点にも被る部分があると思うが、他の自治体ではどのように議論しているか。

○林委員：

他の自治体でも子どもにどのような変化や効果があったかを具体的に記載した方がよいと議論していたが、子ども一人ひとりによって考え方も異なるため、評価に取り上げる内容や書き方は難しい。

○小野部会長：

中野区では、区の担当課が記載したことに対して子どもの権利委員会がどのように記載してほしいと要望を伝えていたのか。

○林委員：

重点事業について担当課からの報告を、子どもの権利委員会で議論して要望を伝えた。

○辻委員：

「子どもの最善の利益」は、決まっているものなのか。

○小野部会長：

子どもの権利条約の4つの原則により決まっている。

○辻委員：

「子どもの最善の利益」という文言を考えると、子ども一人ひとりに合わせた対応が必要であると、難しく捉えてしまうが、「事業を行ったことにより子どもにどのような効果があったか」はイメージしやすい。

○林委員：

子どものために何か行うだけではなく、意識をもって事業に取り組むことが大事である。

本当に子どもの最善の利益の観点から事業に取り組んでいたのかを担当課に自覚していただくことが大切である。

中野区では、担当課が「今後の課題・改善点」にまとめ、次につなげることを行っている。全てが今できるわけではないので、次に生かしていく意識を持って取り組むことが重要である。

○小野部会長：

子どもの最善の利益には、子どもの参加や意見表明も含まれていると思う。子どもの参加や意見表明に関わるものは分けて記載しているのか。

○林委員：

中野区ではそうである。

○小野部会長：

子どもの主体性や子どもの参加、意見表明に関する取組は、「意見表明・参加の観点」で評価されるため、子ども一人ひとりの視点に立った効果などの長期的な視点を、「子どもの最善の利益の観点」で評価したい。



○林委員：

子どもの最善の利益の観点、結果的に子どもの最善の利益に叶った事業になったかを評価するものであると考える。

○小野部会長：

子どもの最善の利益の観点には、子どもの感想、アンケートの結果や、子どもの達成感・肯定感につながったかどうかなどの書き方がよいと思う。ほとんどの事業で子どもの意見を聞かなければならないと思う。

○辻委員：

子どもがどのように変容していくのかについても注目していきたい。

○小野部会長：

子どもに関わる方がきちんと子どもの変化の様子を観察することは大切である。  
子どもの最善の利益の観点を取り入れるためには、職員の研修が重要だと思う。

○林委員：

職員とは全体を指すのか。

○小野部会長：

職員や学童クラブの指導員をはじめ、子どもに関わる人全般を想定している。

○林委員：

職員全体への研修であれば、事業として成立するため、一つの事業の評価として記載した方がよいと思う。

○小林委員：

非行や精神疾患の子どもが減少したなど、数値的な推移でも評価できたらよいと思う。  
長期的な視点という面では、統計的に子どもに利益があったかを判断するのもよいと思う。

○小野部会長：

中野区では、若者も対象に含まれているのか。

○林委員：

若者も含まれているが、基本的には子どもが対象である。

○島崎委員：

中野区では子どもの権利についてリーフレット配布や出張授業などを行っているのか。

○林委員：

まだ実施できていないため、そこが課題であると感じている。

○小野部会長：

出張授業などは「広報・周知の観点」に記載されと考えている。

子どもの最善の利益に含まれるものであるが、「意見表明・参加の観点」や「広報・周知の観点」に該当するのであれば、そちらに記載する。それ以外全てを「子どもの最善の利益の観点」に記載するという考え方でよろしいか。

○林委員：  
そうである。

○小野部会長：  
次回の審議会にて報告し、専門部会では中間報告案を作成する。  
子どもの評価の確認方法については、次回の専門部会で議論したい。

○林委員：  
出張ワイワイトークでは、ワイワイトーク同様に4つの施設について意見を聞いたのか。

○事務局：  
出張ワイワイトークは普段利用している施設に関して聞くことを目的としていたため、訪問先の児童館・児童センターについて意見を聞いた。  
そこで得た子どもの意見も資料1-1に記載している。

○小野部会長：  
たくさんの意見を聞くことができた施設や、少人数でじっくり話せる施設など様々なやり方があった。  
出張ワイワイトークが夏休み最終日であったため、子どもが少なく感じた。実施する日や時間帯も工夫する必要があると思う。

○林委員：  
全ての子どもから意見を聞くことは非常に難しいことであるが、不登校や障害のある子ども、外国にゆかりのある子どもからも意見を聞けるように工夫していきたい。

○小野部会長：  
不登校の子どもの居場所に出向いて意見を聞くのはどうか。

○事務局：  
普段足を運ばない大人が訪問して当事者と対話することは難しい。不登校の子どもの居場所は誰にも干渉されないこともメリットであり、知らない人が話しかけていると聞かれることで子どもが居場所と捉えられなくなり、来なくなる可能性があるため、施設側としては来てほしくないという思いがある。  
市主催の市民講座に向けて取材を依頼したが、子どもがいない時間帯にスタッフと意見交換であれば可能ということで、対応いただいた。

○小野部会長：  
マンパワー的な課題もあると感じている。毎回、部会員や市の職員が子どもの居場所に訪問することは難しい。  
児童館・児童センターの職員に研修を行い、各児童館・児童センターにて実施した方が、より多くの子どもから意見を聞くことができると思う。

## ２ その他

### ○事務局：

ワイワイトークで子どもから聞いた意見に対して、グループごとに市の担当課がコメントを入れた振り返り資料を作成し、参加者に送付した。振り返り資料に対する子どもからの感想もいただいたので報告する。

次回の専門部会は、11月13日を予定している。

### ○小野部会長：

令和7年度第3回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会を閉会する。

以上